

2005年7月8日

クマネズミ Black Rat *Rattus rattus* を、検討対象に入れるべきではないか？



IUCNの侵略的外来種専門家集団のシンボルマーク

外来種シーレーンはあるのか：

日本の国境(経済専管水域)に生物学的意味は、小さい。

「生態系への影響」を考察する基本的な概念として、地域区分を再検討すべき…羽山委員の「国内移入」の問題提起とも絡む。

少なくとも、生物地理学における渡瀬線、ブラッキストン線を超える国内移動については、この法律と関連させて専門家の検討をすべきであろう。

江戸時代と明治時代で区切る、便宜的線引きの怪しいところ：

クマネズミは、繰り返し移入されている(船に乗って)

個体群レベル、亜種レベルでは、以前にいた集団とは異なる集団が、いつ入っていてもおかしくない。

奄美大島には、恐らく異なる遺伝的集団が少なくとも2つ以上いるという事実が示唆されている(鈴木 仁、私信、未発表)

近年の観察により、奄美大島の森林においては、堅果の結実状態などに関連して、冬期に多数の個体が通過、あるいは移入・死亡を繰り返している(前園泰徳、石田健ら、未発表)

提案：次の機会に鈴木仁さんを招聘して、クマネズミのアジア周辺の個体群の遺伝的特性や系統進化について参考意見を聞き、検討に入ってはどうか。

現在の「枠内」であっても、実例をもとに検討課題は多い。

以上